

世界を見つめよう自分を見つめよう／アフリカ・アフリカ

倉吉市立西郷小学校

担当教科：全教科

秋田 博文

●実践教科：総合的な学習の時間 ●時間数：11時間 ●対象学年：小学3年生 ●対象人数：41名

実践の目的

- ・マラウイとアフリカのよさに目を向け、マラウイとアフリカについてよりたくさんを知ること。
- ・マラウイと日本のつながりを通して、日本は世界の国々と深く関わっていることを知る。
- ・自分たちとは違う文化や価値を尊重する気持ちを持つ。
- ・マラウイの学習を通して、自分自身を見つめ直す。

授業の構成

時 限	テーマ・ねらい	方 法 ・ 内 容	使 用 教 材
マラウイ研修出発前			
1 ▼ 2	アフリカ・マラウイってどんなところ？ （マラウイへの興味をもつ）	(1)教師海外研修募集パンフレットの写真がどこの国のものかを想像する (2)担任がマラウイに行くことを知り、自分たちの学習にすることを確認する (3)プレゼントやメッセージについて考える (4)プレゼントを製作する	(1)教師海外研修募集パンフレット (2)世界地図
マラウイ研修帰国後			
3	私たちのプレゼントやメッセージは伝わったかな？ （マラウイへの思いを深める）	(1)プレゼントが渡った時の様子を知る (2)プレゼントが渡った相手の子のことや学校のことを知る (3)感想を発表する	(1)プレゼントを渡している時の写真 (2)学校の様子のビデオ (3)世界地図
4	アフリカって、すごいよ （マラウイとアフリカのよさを知る）	(1)写真や物からアフリカについて想像する・輪を作ってバオバブの太さを想像してみる (2)感想を発表する	(1)バオバブの写真
5	日本とつながっているよ （日本が世界の様々な国とつながっていることを知る）	(1)マラウイに日本のものがあるかを考える (2)日本製の車〔物〕について知る (3)青年海外協力隊員〔人〕について知る (4)感想を発表する	(1)日本製の車の写真 (2)青年海外協力隊員の写真 (3)世界地図
6	裸足って、どういうこと？ （自分たちの価値ばかりで物事が判断できないことを知り、様々な文化や価値を尊重する）	(1)保育園児がどこに歩いて行っているのかを想像する (2)保育園児の家や村について想像する (3)保育園児はなぜ裸足で歩いているのかを考える (4)感想を発表する	(1)裸足の園児の写真 (2)家や村の写真

7	学ぶなかも (自分の学ぶ姿について考える)	(1)マラウイの黒板消しを見て、それが何かを想像する (2)マラウイの教室の様子について知る (3)様々な環境で一生懸命学ぶわけを考える (4)自分たちとの共通点と相違点を考える (5)感想を発表する	(1)マラウイ小学生のアンケート結果 (2)学校の写真 (3)黒板消しとノート
8	スティーブン青年の生き方 (自分の人との関わりについて考える)	(1)青年活動にがんばっているスティーブンについて知る (2)厳しい環境の中でみんなのためにがんばるわけを考える (3)自分たちとの共通点と相違点を考える (4)感想を発表する	(1)スティーブンの写真
9	自分の生活をふり返ってみよう (日常の自分の姿について考える)	(1)これまでの学習について振り返る (2)心に残ったことを発表する (3)自分たちの生活に生かせそうなことをグループで考える (4)グループごとに発表する (5)学習のまとめ	(1)これまでの学習で使った写真等
10 11	アフリカのことをもっと知ろう (アフリカのよさを再認識する)	(1)青年海外協力隊経験者、麻子・ジュバテさん「アフリカについて」 (2)アラマ・ジュバテさん「アフリカの音楽について」 (3)アラマさんの演奏を聴く (4)アフリカのダンスを教えていただく (5)感想を書く	(1)アフリカの太鼓

授業の詳細

1・2 限目 アフリカ・マラウイってどんなところ？

まず、今年度教師海外研修募集パンフレットを提示して、今夏、担任がこの国に研修に行くことを伝えた。そして、子どもたちにはどこの国なのかを想像させた。

ブラジル、アメリカ、インドネシア等、様々な国の名前が出てきたが、マラウイという答えはなかった。ただ、国名ではないが、アフリカと答えた子がいた。

アフリカのマラウイという国であることを伝え、世界地図を使ってマラウイの位置や遠さを知らせた。

次に、写真の女の子について考えさせた。

何歳くらいだと思う？

- ・二十何歳だと思う、子どもがいるから…でもまだ子どもみたい
- ・赤ちゃんのお姉さんじゃないかな

どんな生活をしていると思う？

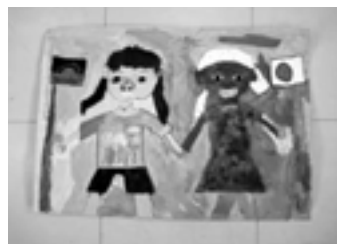
- ・貧しい生活だと思う…でも、服はきれいな感じ
- ・わたしたちとちがう生活をしているのかな

担任だけがマラウイに行って現地の学校と交流したり、知ったりするのではなく、みんなでアフリカについて学習することを確認する。



パンフレットの写真

子どもたちは、現地の子どもたちのことをもっと知りたい、わたしたちのことを知ってほしいという思いから、担任が交流する学校の子どもたちに絵やワッペン、自分たちの写真、“学問のすすめ”の視写文をプレゼントすることにした。そして、役割分担をしてプレゼントを製作した。



プレゼントした絵

〈所 感〉

子どもたちがアフリカのことを考え、プレゼントを製作する姿から、これからの学習に興味を持ち、意欲的に活動するのではないかという期待感が持てた。ただ、アフリカに関するアンケートをとることにより、アフリカについてすでにマイナスのイメージを持っている子がいることもわかった。

3 限目 私たちのプレゼントやメッセージは伝わったかな？

写真とビデオで、マラウイ研修の様子とプレゼントを渡した時の様子を伝えた。

プレゼントが届いて喜んでいる姿、日本とマラウイとの大きな違いにびっくりする姿があった。



〈児童の反応〉

- ・ よろこんでもらえてうれしい
- ・ アフリカのことをもっと知りたい
- ・ 『学問のすすめ』の文字がたて書きだったので、相手の人がくすくすと笑ったということにびっくりした
- ・ 「アフリカ」と聞けば、すぐに暑いと思ったのに、そうではなくてびっくりした
- ・ 小学校が8年生までであると聞いて、びっくりした

〈所 感〉

自分たちが作ったプレゼントがマラウイの子どもたちの手に渡って喜んでもらった様子を知り、子どもたちはすごくうれしそうだった。そして、マラウイやアフリカについてもっと知りたいと感じ、これからの学習に対する期待感や意欲も高まっていったように思う。

4 限目 アフリカって、すごいよ

マラウイやアフリカの良さを伝えるために、以下を実践した。

1. 写真やビデオでアフリカの様子を話す

※写真やビデオは、3限目でもかなり見せていたが、本時はプラス面の映像を重視した

2. バオバブの木について写真を使って説明し、みんなで輪を作ってバオバブの太さを想像させた

10人が手をつないで輪になっているくらいの大きさではないかという想像のもと、10人が手をつないで輪になり、その輪の中にみんなが入ってみた。バオバブの実からできたジャムもあることを伝え、後日、給食の時にパンにつけて味わった。

3. 2学期始めから教室に置いていたカバの木彫りについて説明

4. ブブゼラの紹介と体験

5. 主食のシマ、特産品のピーナッツ、そしてクッキーを紹介

〈児童の反応〉

- ・日本と同じぐらい科学がすすんでいる所があったので、おどろいた
- ・ホテルにすべて「かや」があったので、マラウイには「か」がいっぱいいるのかな
- ・アフリカはびんぼうで何もないかと思っていたけど、きれいなホテルやら、おいしそうなおごちそう、おかし売り場、ガソリンスタンドなどいっぱいあったから、日本のようでびっくりした
- ・いなかの方にもけいたい電話のアンテナがあって、びっくりした
- ・野生動物がいっぱいいるかと思ったけど、いなくておどろいた

〈所 感〉

アフリカのプラス面を伝えたいという思いで、担任がアフリカで体験し、感動したこと等をそのまま伝えようとした。見て考えることだけではなく、体を動かすこと、食べ物を味わうことによって、担任の意図するものを子どもたちはしっかりと感じてくれたのではないかなと思う。ただ、担任が見て体験して感動したもののどれだけを子どもたちに伝えられたかという点、ごく僅かではしかない。また、担任が一番感激したアフリカの音楽やダンスはこの時間に伝えることができず、残念だった。子どもたちのアフリカに対する興味関心をより大きくしたり、アフリカに対するマイナスイメージをいくらか払拭したりすることはできたのではないかなと思うが、もっともっとたくさんのことを伝えたいという思いは強まった。



バオバブの木

5 回目 日本とつながっているよ

遠い国マラウイに日本のものがあるかどうかを考えさせると、ほとんどの子がマラウイと日本とのつながりはないと考えた。その後、マラウイで見た日本のものを伝えた。

■「物」・・・乗用車について

マラウイで見かけた車の半数以上は日本製の車であった。マラウイでは、日本の中古車が多く輸入され、ミニバス等でも利用されている。日本からマラウイまで運ぶのに船で2～3ヶ月もかかるのに、日本製の車は故障が少なくて重宝されていた。

■「人」・・・青年海外協力隊員について

マラウイに在留する日本人の多くが青年海外協力隊員で、これまでに1,423人が活動してきた。今回は、理数科教師の有吉隊員、看護師の原隊員、シニアボランティアの河野隊員のことを紹介した。

〈児童の反応〉

- ・マラウイにも日本製の車がいっぱいあって、びっくりした
- ・青年海外協力隊員というのを初めて聞いた
- ・こう野さんの『なにかをするのは、自分のためではなく人のためにするのがいい。』という言葉がすごかった
- ・マラウイはびっくりだらけだなと思った
- ・秋田先生が言った『日本は世界のいろいろな国とつながっている』という言葉は、感動した

〈所 感〉

日本からものすごく遠いと感じていたマラウイに日本のものがあることを知って、子どもたちはすごく驚いていた。そして、それらが日本製の車と青年海外協力隊員であったことにさらなる



驚きを感じていた。どうして日本製の車なのか、青年海外協力隊員とはどんな人たちなのか興味
が集中していった。JICAシニアボランティアの河野さんの言葉を紹介した時には、実働が伴った
言葉だけに深く感じ入った子が多かったように思う。より広い視野で物事を見て感じる気持ちが
持てたのではないかと考える。

6 回目 裸足って、どういうこと？

①写真を見せて質問！

どこに歩いて行っているのかな？？

児童の反応 「遠足かな」

「何かを取るために森に行っているのかな」

写真の答え 帰宅中で、3～4才の園児が2～3kmも歩
いて帰る



②写真を見せる前に質問！

この子達が住んでいるのはどんな家かな？どんな村に住んでいると思う？

児童の反応 「森の木で作っている家だと思う」「粘土みたいな土でできた家だと思う」「水道は
ないと思う」「裸足なので、貧しい家だと思う」「道の横に生えている草を屋根に
使っていると思う」

写真を見せて答え

- ・ 私たちと同じように家族単位で一軒の家に
住んでいる
- ・ 家は煉瓦や土等で作ってあった
- ・ 煮炊きは外でしていて、水は村にある井戸
から汲んできていた
- ・ 子どもも含めた家族全員で家の仕事をして
いた



③1枚目の写真を見せてもう一度質問！

保育園児はなぜ裸足で歩いているのかな？？

児童の反応 「貧しくてくつが買えないから」「くつが汚れてしまうから」「保育園児はくつを
持っていない」

写真の答え（現地で確認）

- ・ 裸足が気持ちいいから
- ・ どの子も家の中に自分のくつを持っているそう

児童の反応 一瞬ぼかんとしていたが、「そうなんだ」という言葉

④やってみよう！

裸足になって、どんな感じが体験してみよう！

質問！ 裸足の心地よさって？日本で裸足になるときってどんなとき？

質問の意図

日本でも裸足で生活する場面がたくさんあること、わたしたちも裸足が結構好きであることを
再確認した。

日本に住むわたしたちも裸足が好きだったりするのに、「アフリカは貧しい」というような先入
観から物事を決めつけてしまっていることが案外多いのではないかと話した。そして、このこと

はアフリカには限らず、普段の生活の中にもあるのではないかと、自分で確かめて判断することが大切だということを話し合った。

〈児童の反応〉

- ・子どもたちがはだしというのは、てっきりまずしいからだと思っていたけど、気持ちいいからだった。すごくびっくりした。でも、写真で見ると、本当に気持ちよさそうだった。
- ・私は、先生が言ったように、まずしいとか自分で決めてしまわずにちゃんとその人に聞いたりしてたしかめてみないとわからないと思った。

〈所 感〉

3年生にとっては少し難しい学習かと思ったが、しっかり考えてくれた。最後のまとめの部分ではうまく理解できていないかなと思われる子もいたが、ほとんどの子どもたちが思い込みで判断すること危うさに気づいたのではないかなと思う。マラウイの人々が内面に持っている我々と共通のものと、我々とは異なるものをしっかり探ることで、異なる文化を認め尊重する気持ちにつながったのではないかなと思う。外見のみにとらわれるのではなく、様々な人々が奥深い文化を持っていることを感じる事ができた。

7 回目 学ぶなかま

①実物を見せて質問！

これは何かな？

児童の反応 すぐに黒板消しではないかと想像

使ってみて児童の反応 うまく消えない。本当は違うのではないかな

答え 黒板消し



②想像してみよう！！

どんなところで勉強しているのかな？ 教室は？

説明 教室には、机や椅子はなく、マラウイの子どもたちは床で勉強している

黒板もコンクリートに黒ペンキを塗っただけのもの

ごわごわの紙でできているノート（現物を触らせて）は、みんなが買えるわけではない

どんな勉強をしているのかな？

説明 学習内容は日本と同じような内容で、中学に進学するには試験に合格しなければならない
中学からは授業料を払わなければならない
ミトゥンドウ小学校の子どもたちにとって大切なものの第一位は、「学校」である

こういう中でも一生懸命勉強するのは、なぜかな？

児童の反応 「いろいろなことを知りたいからだと思う」「生活が楽になるためだと思う」
自分たちとの同じところ、違うところは何かな？



黒板

〈児童の反応〉

- ・マラウイの人たちの大切なものの一番が学校だったので、びっくりした。
- ・（自分たちと）同じところで一番心に残ったのは、べん強したいという心があることだ。
- ・大切なものが学校というのは、それほどべん強がしたいからなんだと思った。

〈所 感〉

日本の自分たちと比べると厳しい環境ではあるが、夢を持って一生懸命勉強しようとしているマラウイの子どもたちの姿を通して、自分たちと共通する部分を感じ、自分の姿をふり返ることによって学ぶことの意味をあらためて感じる事ができた。また、世界中の子どもたちが学んでいるという現実を認識することで、自分もがんばらなければと感じた子が多かった。

8 回目 スティーブン青年の生き方

「マラウイで会った人の中で、一番すごいと思った人を紹介します」という言葉で授業をスタートした。

①想像してみよう！！

青年活動にがんばっているスティーブン。どんな人なのかな？



スティーブン



モリンガ（薬草）とスティーブン

スティーブンについて

年齢は20才でムランジェというマラウイでも田舎の方に住んでいます。交流の時にアフリカの木彫りを私たちにプレゼントしてくれました。彼は賢い人で、青年活動ではみんなに病気のことを知らせたり、生活を楽しむいろいろなことを教えたりしています。

彼の両親は小さい時に亡くなり、今では育ててもらっていた祖父も亡くなりました。お金の余裕はなくて自分が生活するのに精一杯のはずです。けれども、みんなのために、リーダーとして活躍しています。

②想像してみよう！！

どんな環境の中でも一生懸命みんなのためにがんばるのはなぜかな？

スティーブンの言葉 「自分の行動で他の人たちが喜んでくれるのがうれしい」

「自分たちもやってみようと、いろいろなことにチャレンジすることにやりがいを感じる」

③考えてみよう！

私たちと同じところ、違うところなどどんなところだろう？

児童の反応 子どもたちは、自分が人のためにがんばった経験をもとに共通点を考えた

〈児童の反応〉

- ・つらいこともあるのに、ほかの人のためにはたらいいてすごいと思った。ぼくも何かいいことをすると、ほかの人たちがよろこんでくれていい気持ちなので、そこがスティーブンさんと同じだと思う。スティーブンさんはいろいろなことにチャレンジしてすごいと思った。ぼくもスティーブンさんのようにいろいろなことにチャレンジしようと思う。
- ・6年生と活動の仕方がにっていて、ほかの学年の人のリーダーみたいだ。

・わたしもそんな大人になりたい。

〈所 感〉

私たちと比べて様々な点で異なる生活をしているスティーブン青年ではあるが、その力強く生きている姿を通して、夢を持って一生懸命生きることの大切さを感じられたのではないかなと思う。また、子どもたちは、自らの行動をふり返り、スティーブン青年の行動と比べることにより、人の役に立つことのすばらしさを再認識することができたと思う。

9 眼目 自分の生活をふり返ってみよう

交流した学校、アフリカの物、マラウイの中の日本、裸足のわけ、学校の様子、スティーブン青年の活動等、これまでの学習について使用した写真を掲示し、振り返りをした。

その後、一番強く心に残った学習を発表させた。色々な意見が出たが、生き方がすごいということでスティーブンと答える子が多かった。

次に、心に残った学習ごとにグループをつくり、そのことから自分たちの生活に生かせそうなことを考えさせた。考えたことは画用紙に書かせていった。

最後に、グループごとに発表させた。他の子たちが意見や感想を言い、教師が評価をすることで、自分たちの生活で生かせることを確認し、学習のまとめとした。



〈児童の反応〉

- ・ふくそうなどだけで人のことを決めつけないようにしようと思った。
- ・スティーブンさんがいろいろなことにチャレンジすることをぼくもまねしてみようと思う。
- ・ぼくは、スティーブンさんから、人のためにがんばること、かなしいことがあっても笑顔をわすれないこと、いろいろなことにチャレンジすること、ものや人を大切にすることを教えてもらった。

〈所 感〉

今回の学習内容をいかに自分の生活や行動に結びつけていくかは難しい課題ではあるが、子どもたちに一番考えさせたいことであった。考えにくい内容のグループもあったが、学習のふり返りをさせたり、教師が助言したりすることで、どのグループも意欲的に活動していた。

10・11 眼目 アフリカのこともっと知ろう

倉吉市在住のジュバテさん夫妻に来校していただく。夫のアラマさんは、ギニア共和国出身のアフリカ音楽の演奏家で、妻の麻子さんは、青年海外協力隊員としてジンバブエで活動された経験がある。



今回の学習の締めくくりとして、麻子さんから体験をもとにしたアフリカの魅力を話していただき、アラマさんにはアフリカの音楽を聴かせていただき、アフリカンダンスを教えていただくこととした。

まず、麻子さんに映像を使って自然のすばらしさやジンバブエとギニア、アフリカの人の楽天的なところ等を話していただいた。

次に、アラマさんに太鼓を中心としたアフリカの音楽を聴かせていただき、ダンスを教えていただいた。

〈児童の反応〉

- ・アフリカの音楽ははく力がすごく、しん動がおなかに伝わってくるぐらいだった
- ・アフリカの音楽をきくと、手びょうしをすぐしてしまった
- ・ギニアの人がいろいろな樂きを作ったり、道でダンスをしたりしていることを聞いてとてもびっくりした。
- ・アラマさんとあく手した時、ゆびがかたくてすごいと思った。
- ・つついのりのりになって、気がついたら終わっていた。みんなものりのりだった。

〈所 感〉

やはり本物はすごい。子どもたちは興味深そうに活動し、音楽やダンスの場面では体全体でアフリカの楽しさを感じていたようだった。また、アラマさんと握手した手の感触はいつまでも残っているようだった。

子どもたちの興味関心がこれからもアフリカや世界にどんどん広がっていくことを願っている。

全体を通しての成果と課題

今回の学習では、「自分自身を見つめよりよい生き方をすること（内向きの学習）と、マラウイやアフリカを通してより広い世界に目を向けていくこと（外向きの学習）を、小学3年生なりにバランスよくとらえさせたい。意欲的に活動させたい。」という思いを強く持っていた。その思いの強さから、小学3年生としては少し難しい学習もあったのではないかと反省しているが、子どもたちは実践の目的として考えていた活動を十分に行ってくれたのではないかなと思う。

参考資料

【書籍】

- ・山田耕平著（2007）「自分に何ができるのか？ 答えは現場にあるんだ」東邦出版
- ・栗田和明著（2004）「マラウイを知るための45章」明石書店

【インターネット】

- ・「駐日マラウイ共和国大使館公式HP」<http://www.malawiembassy.Org/jp>